

大学の世界展開力強化事業(2022年度選定) 広島大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2022年度)

国際協働学習を通じて醸成するアジャイル・アントレプレナーシップ

【交流推進事業の概要】

1. 広島大学と英国・印度・豪州との4か国5大学共同で、オンラインでのCOIL型学習、ワークショップ、交換留学及びインターンシップの4つのプログラムを対面・同期オンライン・非同期オンラインによって、学びと実践を繰り返す(アジャイル型教育)方式で人材育成を実施。
2. カーボンニュートラル、SDGs、防災・減災等の世界的課題をそれぞれの地域文化や社会特性を持って主体的にアジャイル型学習を実施することで、6つのコンピテンシー(①システム思考、②アントレプレナーシップ、③異文化アジリティ、④批判的思考、⑤リスクマネジメント、⑥レジリエンス)を備えた人材を育成。

【交流プログラムの概要】

段階的にアントレプレナーシップを醸成するアジャイル型教育プログラム

Program 1: COIL型協働学習

参加5大学の学生の構成チームで取り組むオンライン型協働学習

Program 2: AGILEワークショップ(オンサイト学習)

隔年で日本、インドに4か国の学生が集まり、基礎コースの学習成果に基づきワークショップを実施

Program 3: セメスター留学

特別聴講学生として、3か月以上の派遣・受入。語学力の向上に取り組むつつ、国際課題研究を実施

Program 4: グローバルインターンシップ

海外からの留学生は日本企業でインターンシップを実施
日本人学生は英・印・豪で実施

【本事業で養成する人材像】

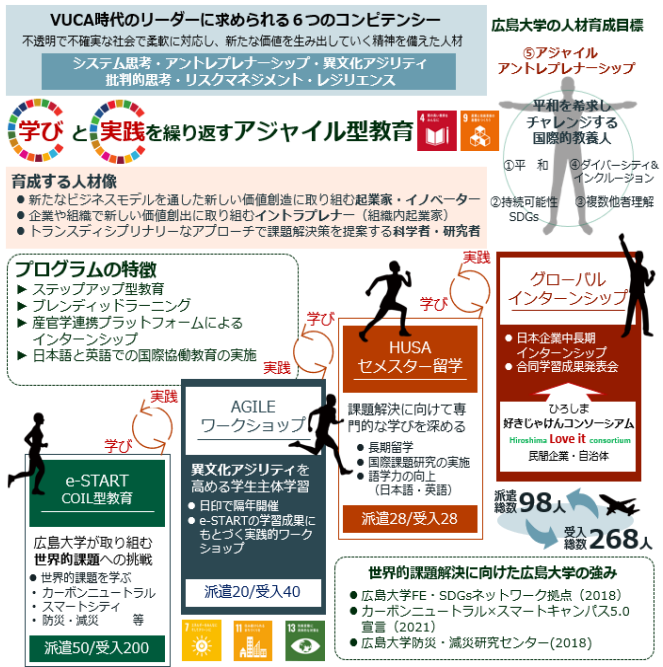
1. 新たなビジネスモデルを通した新しい価値創造に取り組む 起業家・イノベーター
2. 企業や組織において新しい価値創出に取り組む イントラプレナー(組織内起業家)
3. 学際的なアプローチで課題解決策を提案する 科学者・研究者

【本事業の特徴】

1. COIL型協働学習、ワークショップ、セメスター留学、インターンシップを通してアントレプレナーシップを段階的に醸成する ステップアップ型教育プログラム
2. カーボンニュートラル、SDGs、防災・減災等の世界的課題を題材に、日と印でそれぞれ日本語と英語のワークショップを実施する 異文化アジリティを高める学生提案型国際協働学習
3. コロナ禍でのオンライン経験を最大限活用しつつ、ポストコロナを見据え、すべてのアジャイル型教育プログラムでオンラインとオフラインのそれぞれのメリットを組み合わせた ブレンディッドラーニング
4. 本学の産官学コンソーシアム、グローバルインターンシップ事業(G.ecbo)及び、連携校の持つインターンシップ事業を融合した 国際標準のインターンシップを実践する産官学連携プラットフォーム
5. BEVIテスト等による留学効果測定や学習履歴・コンピテンシー評価の デジタル証明書システムの試験運用

【交流予定人数】

		2022	2023	2024	2025	2026
派遣	実際に渡航する学生	0	0	0	0	0
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	10	10	10	10
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	7	17	7	17
受入	実際に渡航する学生	0	0	0	0	0
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	40	40	40	40	40
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	27	7	27	7

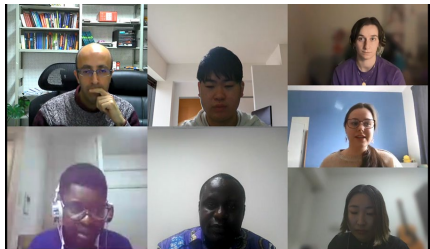


1. 取組内容の進捗状況(2022年度)

【広島大学】

【事業の名称】(採択年度 2022年度)
国際協働学習を通じて醸成するアジャイル・アントレプレナーシップ

■ 交流プログラムの実施状況



〈COIL型教育プログラムの様子〉

カーボンニュートラル、SDGs、防災・減災等の世界的課題をそれぞれの地域文化や社会特性を持って主体的にアジャイル型学習を実施することで、6つのコンピテンシー(①システム思考、②アントレプレナーシップ、③異文化アジリティ、④批判的思考、⑤リスクマネジメント、⑥レジリエンス)を備えた人材を育成している。2022年2.3月にCOIL型教育プログラムを実施し、日・英・豪3か国3大学の学生5名が集い、オンラインでSDGsをテーマとしたUrban resilienceについて協働学習を行った。また、コースではニューサウスウェールズ大学及び、外部講師としてノッティンガム大学寧波中国校の教員より講義を受けた。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

- 日本人学生の派遣
 - ・COIL型教育に3名が参加した。
- 外国人留学生の受入
 - ・COIL型教育では、イギリス1名、オーストラリア1名の計2名が参加した。

	2022	
	計画	実績
学生の派遣	10	3
学生の受入	40	2

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・インド太平洋と連携実績のある教員をプログラムの担当者として配置している。
- ・参加学生には、事後には6つのコンピテンシーに関する自己評価を実施し、レビューを行っている。
- ・年間を通じて提携大学とオンラインで密に連携をとるとともに、学年暦や単位認定状況を確認の上進めている。提携校から教員及び事務担当者を招へいし、キックオフ会議を実施し、プログラムのさらなる向上に向け、意見交換を行った。
- ・外部評価委員には、国際協力の知見に基づき、2名の委員を委嘱している。また、外部評価委員会を開催し、交流事業に対する評価及び今後の事業展開に向けた助言を受けた。



■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・インド太平洋と連携実績のある教員を配置し、円滑な派遣・受入の体制を構築した。
- ・協定校との学年暦が異なることで生じる派遣・受入の問題やプログラムの円滑な運営について、対面でのキックオフ会議だけでなく、オンラインでの議論を重ねて、2023度に向けての土台作りをした。
- ・COIL型教育プログラムの受入れ時は、事前にTEAMS等を活用したことや、TAを雇用し、参加学生、コーディネーターとのこまめな調整を実施した結果、オンライン講義のスムーズな実施が実現できた。
- ・COIL型教育プログラムにおいて、学生がより本格的に留学した際のイメージができるように協定校・外部講師を招いて講義を実施した。
- ・中長期の派遣・受入について、協定校とオンライン・対面を通じて、ワークショッププログラム、インターンシップのためのカリキュラム設定、指導教員の2名体制、学生サポーターの手配など受入体制を整えた。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況
情報の公開、成果の普及

- ・専用ウェブサイトを開設し、キックオフ会議の様子や協定校の関係者が次年度プログラムにおいて訪問予定の場所を訪れている写真を掲載し、プログラムについて学内外に広く紹介した。2023年度には、各プログラムの学生応募、実際の活動内容、写真及び動画などをHPに掲載し幅広くプログラムを紹介する予定である。
- ・本学の留学促進イベント「留学WEEK」や東広島市の委託事業である国際交流イベント等において、プログラムのプロモーションを行った。



〈アジャイル・アントレプレナーシップHP〉
<https://agile-indopacific.hiroshima-u.ac.jp/>

■ グッドプラクティス等

- ・COIL型教育プログラムでは、協定大学の学生と協働するだけでなく、協定大学や外部の大学より講師が講義をすることで、学生が疑似的に留学したような空間で学習できる環境を提供し、ワークショップ、実渡航を伴う中長期留学プログラムへの参加意欲向上や具体的な参加イメージの構築、プログラムを通じて学生同士の協働ビジネスの構築につながった。
- ・外部評価委員会において、COIL型教育プログラムに参加した学生らの成果発表を行うことで、学生の成長およびプログラムに対する評価等を共有でき、次年度の運営に対する改善点について共通認識を持つことができた。

2. 取組内容の進捗状況(2023年度)

【広島大学】

【事業の名称】(採択年度 2022年度)

国際協働学習を通じて醸成するアジャイル・アントレプレナーシップ

■ 交流プログラムの実施状況



(2023年8月AGILE ワークショップ)

- ・2023年7-8月と2024年1-2月に、COIL型協働学習を実施。SDGs等の地球的規模の課題をテーマに設定した、5コースを実施。
- ・2023年8月のAGILEワークショップでは、事前オンライン及び対面のハイブリット型で東広島市のスマートシティ構想の取組を取り上げ、3つのトピック(①DX、②カーボンニュートラル、③モビリティ)に基づき、多様な国籍・専攻の混成チームで協働学習を実施。
- ・セメスター留学では、受入学生が日本語教育及びアントレプレナーシップに関わる分野並びに自身の関心に基づく専門科目を履修。また、派遣学生も派遣先の大学が提供する英語教育及びアントレプレナーシップに関わる分野など履修。
- ・セメスター留学受入学生が日本の企業3社((株)マイクロンジャパン、(株)サタケ、フマキラー(株))でそれぞれインターンシップを実施。派遣学生2名も教育機関やエネルギー関連の企業でのインターンシップを実施中。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

- ・COIL型協働学習:5コースを開講し、印・英・豪から34名、本学から51名の学生が協働学習を実施
- ・ワークショップ:印・英・豪から20名、国内他大学から6名、本学学生14名を含めた合計40名が参加し、協働学習
- ・セメスター留学(受入):(印)BITSから4名、(英)TUoS1名、(豪)UNSW1名の計6名の学生を受入
- ・セメスター留学(派遣):(豪)UNSW1名、(英)TUoS1名の、計2名を派遣
- ・インターンシップ:受入留学生6名をそれぞれ広島の企業3社にてインターンシップ体験を提供。派遣学生2名はシェフィールド大学、ニューサウスウェールズ大学にそれぞれ派遣し、同時にインターンシップ実行中



(2024年1月 COIL型協働学習)

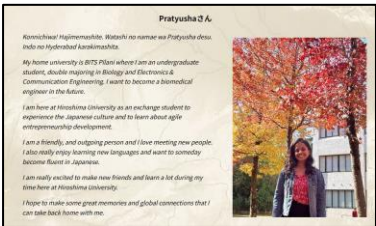
	2023	
	計画	実績
学生の派遣	17	53
学生の受入	67	60

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・本学と印・英・豪の4大学の合同・地域別会議を通じて、本事業の到達目標に加えて、学生の受入方針、カリキュラム方針(学習内容・評価基準)、単位互換等について共有
- ・自己点検・評価の結果と外部評価委員会の検証結果に基づき、事業運営および教育プログラムの改善と質の向上への取組を実施
- ・個別の教育プログラムについて、授業評実施価値アンケート、6つのコンピテンシー評価、BEVIテスト結果を確認することで、授業内容や方法の有効性を検証し教育プログラムの改善を実施



(2024年3月20日 UNSWとの会合)



(2023年11月7日 セメスター留学紹介サイト公開)

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況情報の公開、成果の普及

- ・本事業のプログラムを日英言語でウェブサイト公開。
- ・また、本学で実施中の他の世界展開力事業と併せて広報を行うポータルサイトを開設し、包括的に成果等を情報発信
- ・学内留学促進イベントでの説明会実施及び広報
- ・UNSW(豪)のStudent Expo、TUoS(英)、BITS(印)にて、対面で、広く学生にプログラム説明を実施
- ・本学の学生及び東広島市民を対象とした国際交流イベント「EUROPEAN SATURDAY」における本事業の紹介

■ グッドプラクティス等

●ワークショップ

- ・連携大学以外の国内他大学への横展開。
- ・ワークショップ参加学生に向け、JV-Campusを活用したオンライン事前授業の実施。ワークショップで多様な背景の学生と協議するための事前準備を行うことで、学生の不安や負担を軽減し、円滑で効果的なグループワークを実現
- ・ワークショップ期間中にも講義資料や動画等をJV-Campusで共有し、プログラム内容の確認及び予復習に活用
- ・ワークショップをきっかけとし、本学及び協定校の学生が上位プログラム(短期派遣、COIL型協働及び交換留学)に参加

●プログラム評価

各プログラム前後で6つのコンピテンシー評価やBEVIテストを実施し、変化を計測するとともに、プログラム改善に活用

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・オンラインでの学生の協働学習のための、JV-Campusの活用、派遣・受入に際しての連絡体制として、Slack等のツールやSNS等の整備、学習環境整備を実施
- ・事業実施部会に、印・英・豪の連携実績のある教員が参画することで、印・英・豪の文化・社会を踏まえた学生指導実施のための体制を整備



(2023年8月 JV-Campus)

3. 取組内容の進捗状況(令和6(2024)年度)

【広島大学】

【事業の名称】(採択年度 令和4(2022)年度)
国際協働学習を通じて醸成するアジャイル・アントレプレナーシップ

(1) 交流プログラムの実施状況



◀ 2024年度8月ワークショップ@インド

2024年7-8月および11-2月に、SDGs等の地球規模課題をテーマとしたCOIL型協働学習を4コース実施。2024年8-9月のAGILEワークショップでは、事前オンラインと対面で、ブロックチェーンによるデジタルビジネスをテーマに、多国籍・多専攻混成チームによる協働学習を展開。セメスター留学は、受入学生が日本語教育やアントレプレナーシップ関連科目に加え、自身の専門分野を履修し、派遣学生も派遣先大学で英語教育やアントレプレナーシップ関連科目を履修した。さらに、受入学生はサタケ、フマキラー、広島大学国際室で、派遣学生は研究や環境、デザイン分野の企業等でインターンを実施した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・オンライン：学部・大学院生108名（1単位）
- ・短期派遣：（インド）学部14名（2単位）
- ・交換留学：（印）学部生1名（2024年8月～2025年3月）
（英）学部生2名（2024年10月～2025年3・6月）
（豪）学部生1名（2025年2月～2026年12月）
- ・インターンシップ：（印・英・豪）学部生3名（1単位）

○ 外国人留学生の受入

- ・オンライン：学部生37名
- ・交換留学：（豪）学部生1名（2024年4月～2024年8月）
（印）学部生1名（2024年10月～2025年3月）
（英）学部生2名（2024年10月～2025年8月）
- ・インターンシップ：（印・英・豪）学部生3名（1単位）

	2024	
	計画	実績
学生の派遣	27	131
学生の受入	47	41



2024年度インド中長期留学
(2024年8月～2025年3月)

(2) 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・個別の教育プログラムについて、授業評実施価アンケート、6つのコンピテンシー評価、BEVI テスト結果を確認することで、授業内容や方法の有効性を検証し教育プログラムの改善を実施。また、成果の可視化と学修意欲の向上を目的として、マイクロレデンシャルとしてのデジタルバッジの付与も行い、2025年8月時点で110個を発行。加えて、マイクロレデンシャルとして発行したデジタルバッジは、日系企業でのインターンシップ採用に活用されるなど、学生のキャリア形成にもつながっている。
- ・本学と印・英・豪の4大学の合同・地域別会議を通じて、本事業の到達目標に加えて、学生の受入方針、カリキュラム方針（学習内容・評価基準）、単位互換等について共有した。
- ・自己点検・評価の結果と外部評価委員会の検証結果に基づき、事業運営および教育プログラムの改善と質の向上への取組を実施した。
- ・サマーコースでは4大学の学生が地域課題を調査・討議し、解決策を提案・発表。
- ・本学国際室で展開力5事業を連携運営し、部会→全学会議で意思決定。
- ・教育体制を強化し、海外経験豊富な教員を配置。教員交流でオンラインセミナーや共同研究の協議、幹事校連絡会も実施した。



デジタルバッジの発行
(2024年8月以降)

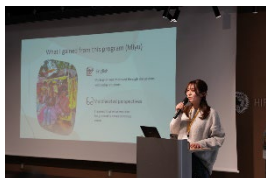


2024年度第3回採択校連絡会
(2025年2月10日)

(3) 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、成果の普及

- ・柔軟で発展的な取組として、本事業に参加する4大学から、オンライン、インドでの短期派遣、交換留学の計43名参加する形で実施し、多様な文化的・学術的背景の学生が協働を行った、国際的な学術交流を促進した。また、本学の展開力5事業と連携し、グローバル人材育成スキルの一つである「アジャイルアントレプレナーシップ」を養成している。
- ・成果の普及として、専用ウェブサイト、SNS、JV-Campusを活用した広報に加え、学内外での留学促進イベントや東広島市との共同イベントを実施した。また、JV-Campusを活用し、2025年度にはオンライン授業の必須視聴項目として活用する予定。さらに、2024年度第3回採択校連絡会において全国の教職員や学生を本学に招聘し、意見交換会や留学体験発表を行った。
- ・本事業の成果を多様なイベントを通じて普及した。具体的には、2025年3月に広島市で開催した一般公開イベント「広島大学がつなぐ世界の大学紹介」においては、一般来場者113名に対し、インド、イギリスの連携大学教員が大学紹介と事業成果を紹介した。また同日、本学が実施する世界展開力4事業の大学長らを招聘して開催した「第3回平和学長会議」にて、事業の枠を超え、質保証を伴う教育成果の横展開を図った。

(4) 特記すべき取組(GP)



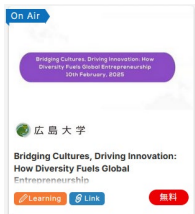
(2025年2月10日第3回幹事校連絡会_意見交換会&留学報告会)



(2025年2月10日同連絡会：学生主体ワークショップの様子)

・採択校連絡会の開催

令和7年2月10日、広島大学フェニックス国際センター MIRAI CREA にて、大学の世界展開力強化事業（インド太平洋地域対象プログラム）の令和6年度第3回採択校連絡会を開催した。学生による留学体験発表、スズキ株式会社の齊藤欽司氏と西中川薫氏（オーストラリア）がオンライン講演を行った。学生主体の Positive Peace Society 企画のワークショップも同時に開催した。また、教職員向けにはビザや情報発信、大学間連携などをテーマに意見交換を行った。



・JV-Campusでの動画一般公開

幹事校連絡会で実施したオンライン講演において、オーストラリアで日豪間の連携支援やイノベーション推進に取り組む西中川薫氏（“Bridging Cultures, Driving Innovation”）より、新たなビジネスチャンスの創出やビジネス成功における多様性の重要性についてご講演いただき、その動画を公開。

(2025年5月12日JV-Campus一般公開)

(5) 主な成果・アウトカム

多層的な双方向プログラムによる国際共修：オンライン及びサマープログラムの参加学生が上位ステップ（交換留学）へ参加する学生の増加



COIL型協働学習



ワークショップ

・修了者のフォローアップ：

- 2023年度英ハ中長期留学：教育学部1名、日本語教育インターン後⇒英語教員
- 2023年度豪ハ中長期留学：経済学部1名⇒某企業での内々定
- 2023年度ワークショップ参加：総合科学部2名⇒国内もしくは海外大学院進学予定
- 2024年度ワークショップ参加：総合科学部1名⇒大学院進学予定
- 2024年度ワークショップ参加：先進理工学部および総合科学部2名⇒（英）2025年度中長期留学予定

・アントレプレナーシッププログラムの全学展開：

2023年度ワークショップに参加した学生2名が「東広島市・学生発スタートアップチャレンジ2023」でのひろしま好きじゃけんコンソーシアム賞に続いて、2024年度中四国スタートアップ・エコシステム PSI (Peace & Science Innovation Ecosystem) に参加し「ちゅうぎんキャピタルパートナーズ賞」を受賞、他のアントレプログラムへの波及効果も

〈2025年02月15日：2024年度中四国スタートアップ・エコシステム〉
先進理工研究科1年（右） 総合科学部4年（左）



〈2025年6月4日：株式会社スターベルズ (StarBells) 設立〉
広島大学情報科学部3年

・アントレプレナーシップ教育から現場へ：

2023年度ワークショップ修了生が企業した大学発ベンチャー「スターベルズ」(2025年6月設立)
所在地は広島大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
ミッションは「輝く人を輝く人が育てる」
主な事業は、高校生向けオンライン塾「COMPASS」、学生主体のWeb制作・デザイン事業、大学部活・サークル向け組織コンサルティング

・挑戦を形に、学生発イノベーション：

プログラム修了者が立ち上げた学生主体のグループ AGILE NEXUS。異文化交流を出発点に、ワークショップ・大学祭・フィールドワークを通じて学びを実践し、最終的にビジネスコンテストや社会実装へつなげる段階的な活動を展開。日本人学生と留学生の協働により、新しいサービスやイノベーションの創出、持続的な組織運営の確立を期待。



〈2025年6月：AGILE NEXUS発足〉